

P T A ・ 教育後援会合同役員会（4月23日（土）） 校長挨拶

P T A ・ 教育後援会の皆様には、「いわき湯本高校」開校に向け、さまざまなご支援・ご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

昨春、遠野高校の最後の校長として着任し、今春、いわき湯本高校の最初の校長として着任しました。

常磐・遠野地区は、私のふるさとであり、校長として、ふるさとの2つの高校の教育に携わることができ、非常に感激しているとともに、責任の重さを感じております。

私には夢があります。

さはこの丘（本校舎）とあかさかの丘（遠野校舎）から、「いわき湯本高校」という新しい風を吹かせたい、という夢です。

4月2日（土）Jヴィレッジで、Fリーグが開幕し、F1に昇格したいわき湯本高校サッカー一部が出場しました。

本校舎・遠野校舎サッカー部の生徒の頑張り、新たな歴史の始まりを、この目でしっかりと見ながら、私は胸が熱くなりました。

開校式では、本校舎・遠野校舎の生徒会長が、校章、校歌を紹介し、吹奏楽部の演奏録音による校歌が披露されました。

初めての入学式では、新入生代表生徒から、誓いの言葉が力強く述べられました。

4月21日（木）マルトスーパーセンター湯本店のオープンに合わせ、家庭クラブが考えた「Iwaki たっぷりハヤシライス」がコラボレーションメニューとして販売され、家庭クラブの生徒による見事なプレゼンが披露されました。

授業においては、どの生徒も熱心に取り組んでおり、学力向上・進路実現に向け、頑張っております。

放課後においては、さまざまな部や委員会などの活動が展開され、土日におい

では、いわき市の内外で、各種大会や練習試合が行われております。

「いわき湯本高校」の生徒が躍動しております。

「いわき湯本高校」という新しい風が吹いております。

学校には、さまざまな学校行事があります。

今年度は9月に公開文化祭があります。

昨年度は中止でした。

苦渋の決断だったでしょう。

今年度、全面実施か、全面中止かという二者択一ではなく、感染症対策を踏まえた実施可能な文化祭という第三の選択肢を模索したい学校一丸となって、実施の方向で調整・検討していき、コロナ禍における「いわき湯本ならではの」文化祭をつくっていきたいと考えております。

生徒一人一人の奮闘努力、指導・支援する教職員一人一人の頑張りが、「いわき湯本高校」という新しい学校づくりにつながり、「いわき湯本高校」という新しい風を吹かせることとなります。

「いわき湯本高校」という新しい風を強く、どこまでも遠く、さわやかに吹かせたい。

そのために、大切にしたいことが「空気の教育」です。

家庭には「家庭の空気」、「家風」というものがあり、学校には「学校の空気」、「校風」というものがあります。

「空気の教育」は「形式」×「くりかえし」×「時間」によってできるあがるものです。

例えば、食事の前に、「いただきます」と言うのが「形式」です。

「くり返し」言って、何年も続けて、「時間」をかけて、はじめて、雰囲気、「空気」が醸し出されます。

「いわき湯本高校」において「空気の教育」を大切にするに当たり、3つの「キーワード」があります。

1つめは、「ありがとう」と言える・言ってもらえる生徒・教職員・学校づくりです。

「ありがとう」と言えるためには、「友愛」の心が必要です。

「ありがとう」と言ってもらえるためには、「創造」する力が必要です。

「ありがとう」と言える・言ってもらえる人が、「自立」した人です。

つまり、校訓「自立」「友愛」「創造」を身につけた生徒を育てる学校をつくることです。

2つめは、地域とともにある学校づくりです。地域を愛し、地域に愛され、地域を支える人を育てる学校をつくることです。

3つめは、学校づくりは自分づくりです。これまでの湯本高校、遠野高校の「よき伝統・実績、熱い思い」を引き継ぎながら、「新しい学校」をつくることを通して、それまで気づかなかった自分の「新しい可能性」を発見し、磨き上げ、成長することです。

以上、「いわき湯本高校」という「新しい風」を吹かせたいこと、「空気の教育」を大切にすること、3つのキーワード「ありがとう」「地域とともにある学校」「学校づくりは自分づくり」についてお話ししました。

こうしたことを着実に進めていくためには、私たち教職員の日々の取り組みはもちろん、PTA・教育後援会の皆様をはじめ、学校関係の皆様のご支援・ご協力が必要です。

本日の同役員会を踏まえ、PTA・教育後援会の皆様には、今後も「いわき湯本高校」という新しい学校づくりに対するご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

本日は、どうぞよろしく願いいたします。